

3710 ジョルダン

佐藤 俊和 (サトウ トシカズ)

ジョルダン株式会社社長

スマートフォンによる生活の質の変化に対応した新たな事業の構築

◆最近の世の中の動向

代表取締役社長 佐藤 俊和

この業界では大体10年単位でメインのデバイスやプレーヤーがかわりながら動いている。携帯の領域もいわゆるガラパゴス携帯からスマートフォンに変化してきた。大きな流れをつかんで自分たちの動きの焦点を絞っていききたい。

アメリカでは、流しのタクシーがなくタクシーを呼ぶことが困難であったが UBER というアプリが登場し、いつでもタクシーを呼べる便利な国になりつつある。さらに5センチ四方程度の大きさのプリペイド式 Wi-Fi ルーター KARMA はテザリング端末であり、周囲の人にそれを使わせることでパケットの割り戻しが受けられるようになっている。通信環境が非常に悪いところでも皆が使えるような状態が急速にできてきている。スマートフォンで世の中が大きく変わり始めている。

◆ジョルダンの近況

ジョルダンの有料会員数・検索回数については若干減程度で、特別致命的な形ではない。乗換案内関係は増収増益になりつつある。乗換案内に関して消費税率変更にもなる運賃改定には迅速に対応し、3月7日にリリースを開始した。バスも、ゴールデンウィーク前には新しいデータに対応した。

今後の大きな流れでは、デザインコンサルティングの IDEO 社とともに、LOOK UP フィールド、その他のインターフェース、の2段階でデザインを変更する予定である。始めに iPhone の LOOK UP フィールドを変更し評価を得ている。今後もインターフェースも変えつつ機能追加に取り組んでいきたい。

新しいビジネスの1つになる可能性として、証券界・金融界の方に積極的に営業しようとしている。電話機能とメール機能に限定した iPhone で乗換案内を使いたいというニーズがあったので、iTunes からアプリをダウンロードせず、直接アプリをインストールするという手法で、企業内ユーザーに乗換案内の提供を始めた。営業職の方は乗換案内を使うことが非常に多く、セキュリティ上もほとんど問題なくできる。4月から現場で運用が始まっている。

「乗換案内 Biz」では、英語、韓国語、中国語(簡体、繁体)等の他言語版を、ASP 版で出し始めた。従来から「乗換案内 イントラ 3Plus」というイントラネット版が使われていた企業内の旅費精算を、一部ではこの「乗換案内 Biz」の ASP 版にプラットフォームを移行する形で活用が始まってきている。ASP とイントラの両方で、企業内での乗換案内利用の形が出始めている。先ほどの法人向けのスマートフォン版とあわせて法人ユースで新しい取り組みを始めている。

函館駅・五稜郭タワーにサイネージ端末をつくり納品した。全国のバス情報を積極的に入れ始めたことが予想以上に営業に貢献し始めている。地方のバスを拡充しながら、地域の案内ができる大きな端末(OS は Android)をつくった。

ユーカリが丘でデジタルフォトフレームを全家庭に配る等して地域の案内をする「未来情報都市プロジェクト」に

際して、わが社が「CommuCs(コムックス)」というASPの基盤システムをつくった。電車、バスも案内できるし地域の案内が様々なことができる。「CommuCs」は他所でも展開できるため京都の「歩くまち京都」にも展開した。道路渋滞情報を加味したバスルート案内の実証実験とあわせて機能を強化し、京都の町中のタウンガイドを行っていくもので、他地域からも引き合いがきている。

公共交通の情報はオープン化されていく流れだと思うが、その場合わが社としてはデータを他業者に開放することが必要となる。ボランティアベースだと運営が難しいため、入力をできるだけ地元の人がやり、われわれがサーバーを維持しながら、将来コンテンツプロバイダが利用料を払って使うビジネスモデルになると希望している。その最大の鍵を握るのがバスということである。

この1年は社内の大きな変革として不採算事業からの撤退を行っている。西部邁事務所編集の雑誌「表現者」は4月発売号を最後に版元を他社に移行した。マルチメディア事業全体を見直していく。

同時に、新しい採算事業を立ち上げるべく、大きなM&Aよりは小規模のグループ会社を新たにいくつかつくっていくことを考えている。

現在は思い切った仕組みや組織の変更を入れ始めている。

◆第2四半期経営成績

執行役員経営企画室長 岩田 一輝

第2四半期の経営成績は、前年同四半期と比較して、売上高は21億37百万円、営業利益は3億37百万円、経常利益が3億61百万円、四半期純利益が2億25百万円であり、売上高は若干減少しているが、営業利益以下については大幅に増加した。

要約損益計算書では売上高、売上総利益は減少しているものの販管費削減の影響で結果営業利益が増加している。営業外損益も24百万円のプラス、特別損益もプラスであり、それを踏まえて経常利益、四半期純利益とも大幅増加という形で終了した。

売上高の内訳は、乗換案内事業は約50百万円の増加で終了しており、モバイルは減少しているが旅行および法人向けが増加となった。マルチメディア事業は大きく減少した。

変動要因については、モバイルの有料サービス「乗換案内NEXT」「乗換案内Plus」の会員数が3月末現在約52万人で、モバイルについては売上高減少となっている。

増加した法人については3月末納期の大型案件の納品が順調に進んだこと等による売上増加である。また、旅行に関しては、イーツアー(株)の前年同四半期は第2四半期から同社の損益を連結していたため3カ月のみの連結であったが、当期は6カ月間フルに寄与した影響で売上が大幅増加した。

マルチメディア事業については(株)エクスプレス・コンテンツバンクが持分法になり前期から当期で約2億円の売上減少になった。

結果、前年同四半期と比較して売上高が若干減少という形となったが、エクスプレス・コンテンツバンクが外れた影響を除外すれば他のところではプラスとなっており、その分をある程度カバーできている。

利益については、販管費の削減が営業利益の増加に大きく寄与している。広告宣伝費、人件費が全体として削減できている。

経常利益については、エクスプレス・コンテンツバンクが持分法になり、当第2四半期では順調に黒字で推移したため、結果持分法投資利益が発生して経常利益にプラスの影響を与えている。

最終利益は、前期はかなり大きいのれん償却額があったが当期にはなくなった影響で、最終利益も前年同四半期に比較して約6倍になり最終利益増加の要因となっている。

◆2014年9月期業績見通し

2014年9月期通期の業績見通しは、売上高43億50百万円、営業利益5億60百万円、経常利益5億50百万円、当期純利益3億40百万円と若干修正を行った。

売上高は、昨年途中より連結会社の出入り等あったがカバーして全体的には微増で終了するとみて変更はしていない。予定どおり第2四半期までは推移している。

営業利益、経常利益、当期純利益については第2四半期までの状況を踏まえて若干上方修正を行った。その結果、営業利益は18.0%増、経常利益は23.8%増、当期純利益は28.9%増で、利益については大きく増加で終了するとの見通しである。

製品・サービス別の見通しは、売上全体について変更は行わず、若干内訳のみ調整したが大幅には変更していない。大きな変動ではモバイルに関しては第2四半期の状況を踏まえて少し減少するとみている。旅行は第2四半期までも増加しているが、イーツアーが通期で寄与し大幅増加と見込んでいる。

マルチメディア事業については、第2四半期までと同様であるが、エクスプレス・コンテンツバンクが連結から完全に外れたこともあり全体に縮小しているため、それを踏まえて売上高の見通しとしては減少する見込みである。

◆ 質 疑 応 答 ◆

上期に持分法投資利益が出たり販管費の削減で効果があったようだが、通期ではどうなるのか。

販管費は昨年よりは削減できる状態が続くとみている。EXCBの販管費が大きかったこともあり、直近の数字を見る限り前年より削減できているため下期に急激な増加することはないとみている。持分法投資利益は、エクスプレス・コンテンツバンクの利益がどうなるかと、もし他の関連会社があればその影響も、ということなので大きなプラスにもマイナスにも考えていない。

上期に持分法で23百万円の利益が出ているが、下期はほとんど利益は見込んでいないとみればいいのか。

エクスプレス・コンテンツバンクについては10月～3月のほうが利益が出る傾向にあるので今のところあまり強気な見込みはしていない。

有料会員数について、前期末の2013年9月に58万人となりその後減少しここへきて少し戻ってきた形であるが、期末にかけて今はどのような見通しを持っているか。

スマートフォンについては、アプリの有料化では苦しんでいるがウェブに関しては確実に伸びている。アプリについては機能的に劣っている部分をデザインの直しとともにすべて取り戻して有料会員数増加の糸口をつけたい。収益については有料会員と広告の和という形でみていて、アプリのほうで有料化の流れをしつつ、大きな流れではその和をどう伸ばしていくかと考えている。まず構造を直すことを第一に考えている。

期末の有料会員の数字はどのぐらいを想定しているか。

現在のところ横ばい程度とみている。

(平成26年5月16日・東京)

* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見ることができます。

<http://www.jorudan.co.jp/ir/data/ir/accounts/meeting2014.html>